

平成 20 年度活動報告
(2008 年 4 月～ 2009 年 3 月)

委員 田村 一
委員 佐藤 悟

1. 運営

A. 組織

館長 保野洋一（教育長兼務）
学芸課長 西谷榮治
学芸係長 佐藤雅彦
臨時事務 保野亜由美（4/1-15）
岡田美香（4/16-3/31）

B. 利尻町博物館協議会委員

（任期：平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

会長 張間敏一
副会長 佐藤 悟
委員 田村 一
委員 高松親彦
委員 津田和子

C. 文化財調査委員

（任期：平成 20 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

委員 張間敏一
委員 津田和子
委員 高松親彦

D. 平成 20 年度のあゆみ

4/27 定期観光バス対応による開館開始
5/1 博物館常設展示公開開始
5/29 博物館屋上防水改修工事～6/5
7/15 博物館玄関手すり塗装完了
10/2 古環境調査・利尻島調査研究事業（百原新氏：千葉大学大学院園芸学研究科）～4
10/15 会津藩士利尻島警備調査（安藤実氏氏：七飯町）
12/1 冬季閉館
12/4 利尻町博物館協議会
12/5 博物館漏電・前庭時計配線修理
3/23 利尻町博物館協議会・文化財保護委員会
3/24 利尻研究第 28 号発送

D. 入館者数

表 1 に平成 20 年度入館者数，表 2 に年次別入館者数の推移を示した。

利尻島の観光客入り込み数は平成 15 年からの減少傾向が平成 20 年度も続き，その影響が博物館にも大きく及んでいる。全体の入館者のうち個人客が占める割合は 75% 前後と昭和 59 年以来ほぼ安定

表 1. 平成 20 年度入館者数

月	有料入館者					無料入館者			合計	開館日数
	個人		団体		小計	小中	一般	小計		
	小中	一般	小中	一般						
4	1	32	0	0	33	1	14	15	48	10
5	16	460	0	0	476	46	118	164	640	31
6	1	987	2	202	1192	3	110	113	1,305	30
7	37	1,718	0	401	2,156	30	137	167	2,323	31
8	131	1,853	1	143	2,128	135	183	318	2,446	31
9	11	823	0	469	1303	15	88	103	1,406	30
10	1	89	0	69	159	0	104	104	263	27
11	0	15	0	0	15	0	28	28	43	26
12	0	1	0	0	1	0	10	10	11	4
1	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4
2	0	2	0	0	2	0	31	31	33	4
3	0	3	0	0	3	1	13	14	17	4
計	198	5,983	3	1,284	7,468	231	840	1,071	8,539	232

表2. 年次別入館者数の推移

年	有料入館者				無料入館者		合計	開館日数	
	個人		団体		視察・見学等				
	小中	一般	小中	一般	小中	一般			
1980	昭55	2,299	13,846	91	922	248	1,239	18,645	182
1981	昭56	1,799	13,153	82	2,753	106	1,034	18,927	191
1982	昭57	1,749	12,917	89	2,454	192	1,167	18,568	191
1983	昭58	1,686	12,573	92	959	124	983	16,417	188
1984	昭59	1,488	10,525	60	2,707	179	1,056	16,015	192
1985	昭60	1,534	9,709	53	3,484	199	805	15,784	193
1986	昭61	1,349	11,161	0	2,455	242	1,838	17,045	194
1987	昭62	1,319	11,278	35	2,402	512	1,621	17,167	194
1988	昭63	1,246	10,793	0	2,655	479	1,868	17,041	192
1989	平元	1,180	11,805	0	5,498	440	1,723	20,646	190
1990	平2	1,248	13,634	26	3,950	383	1,673	20,914	191
1991	平3	1,589	16,474	38	5,324	398	1,625	25,448	192
1992	平4	1,711	18,843	0	4,496	314	1,334	26,698	190
1993	平5	1,295	14,856	64	4,235	231	928	21,609	188
1994	平6	1,244	14,482	80	4,028	221	1,510	21,565	188
1995	平7	1,170	13,278	12	3,699	97	865	19,121	191
1996	平8	1,007	10,777	7	3,670	104	761	16,326	192
1997	平9	763	9,776	4	1,451	224	696	12,914	197
1998	平10	648	8,622	8	1,293	317	751	11,639	203
1999	平11	500	9,430	5	1,059	270	876	12,140	205
2000	平12	378	9,388	63	2,207	240	594	12,870	223
2001	平13	442	9,593	0	2,172	237	608	13,052	226
2002	平14	418	9,637	65	1,859	255	675	12,909	224
2003	平15	315	8,476	4	2,105	309	583	11,792	225
2004	平16	300	7,869	0	1,791	337	774	11,071	223
2005	平17	246	7,274	0	788	487	765	9,560	224
2006	平18	216	6,782	5	1,676	227	927	9,833	219
2007	平19	245	6,128	0	1,287	292	633	8,585	220
2008	平20	198	5,983	3	1,284	231	840	8,539	232
合計		29,582	319,062	886	74,663	7895	30,752	462,840	5860

表3. 平成20年度博物館予算(当初予算 単位:円)

科目	予算	科目	予算	科目	予算
報酬	46,000	旅費	66,000	備品購入費	0
給料	8,652,000	需用費	3,231,374	負担金補助及び交付金	42,000
職員手当等	4,896,000	役務費	377,892	公課費	0
共済費	2,547,000	委託料	30,000		
賃金	1,480,734	使用料及び賃借料	278,000		
報償費	0	工事請負費	11,855,000	合計	33,502,000

表 4. 展示活動

種 別	テーマ	期 間など
館内展示	「樺太絵はがき展」	宗谷管内の学芸員の会作成.
	トイレ展示	通年. 「利尻の冬」「利尻の白い花」. トイレ問題.
施設外展示	利尻の島人たち	通年, 町営ホテル利尻.
	杵形岬はどんと岬	4-11 月. 杵形岬情報写真.
	利尻の自然	通年, 杵形ミニビジターセンター.
	北の海の道の駅	5-9 月, 杵形港フェリーターミナル.
	歴史写真展	通年, 特別養護老人ホーム・利尻町高齢者生活福祉在宅介護支援センター・利尻島国保中央病院.
	図書室ミニ展示	年 4 回. 「高師小僧」「鳥の折り紙」「アサギマダラ」「昆虫標本」.
	バードウィーク写真展	4/27-5/11, どんとロビー. 日本野鳥の会道北支部と共催. 写真パネル・羽標本など.
図書まつり関連展示「利尻のシャチ展」	9/20-24, どんとロビー. 写真パネル, 柴浜産全身骨格標本, 書籍展示.	
第 37 回移動展示	利尻島の自然ニュース 2008	① 駕泊フェリーターミナル 3/2-3/8, ② ホテル利尻 3/9-15, ③ どんとロビー 3/16-22, ④ 仙法志郵便局 3/23-29

しているため、その増減が総数に大きな影響を与えている。平成 14 年から個人客は減少し続けており、平成 20 年までに約 4000 人の減少となった。

無料入館者については平成 7 年以来ほぼ 1000 人前後で推移しており、多少の増減はあるものの安定している。

E. 平成 20 年度博物館予算 (表 3)

2. 教育普及活動

A. 展示活動 (表 4)

展示活動については特に大きな活動の変更はなく、館内常設展示などの細かな改訂のほか、例年通りの館外展示が継続されている。自然史関連展示では、期間が限られたものや、安全性がある程度確保できるような企画では、どこでも手に入れられる二次資料でなく、なるべく実物標本を閲覧してもらうように展示の中身を変更しつつある。

B. 普及講座 (表 5)

事業数は平成 19 年度から縮小傾向であり、これ

は博物館資料を中心とした業務へのシフトを意識した結果であるとともに、他機関との重複事業などを精査したことにもよる。その一方、事業協力や共催事業は増加しつつあり、博物館にとってもスタッフや参加者の増加などで大きな利点があるものと思われた。

なお、平成 20 年度から一部の事業において参加者に感想カードを提出していただいた。これによると 5 点満点の満足度において平均値は 4.48 点であり、事業の評価などに今後役立てていきたいと考えている。

C. 出版活動

< 定期刊行物 >

・博物館だより「リイシリ」

Vol. 27(4) ~ 28(3) 通巻 No.250 ~ 259

(年 10 回発行)

・「利尻の語り (211) ~ (216)」広報りしり掲載

・「博物館発利尻情報 (全 6 回)」同上

・「利尻研究ダイジェスト 第 1 号」(A4 版 6 ページ)

・「利尻研究 Rishiri Studies 第 28 号」

表5. 普及講座

月日	テーマ	場所	内容	講師	参加
5/5	春の探鳥会	鴛泊富士野	早朝探鳥会. 日本野鳥の会道北支部と共催.	学芸員, 支部員	18
6/14	フラワーソン	島内一円	植物開花調査会 (118 種).	学芸員	10
7/12	オオハンゴンソウ除去作業会	種富湿原	湿原ミニ観察会とともに駆除活動 (2005 本) を実施.	学芸員	7
8/29	ナイトハイク	野塚〜姫沼	ロウソクランタン, 夜の森体験など.	学芸員	8
8/16	コウモリ観察会	姫沼	コウモリ学習会と標識調査見学.	学芸員	6
8/10	昆虫採集と標本づくり	金崎, 博物館	昆虫採集と標本作製会.	学芸員	2
2/8	スノーシュー観察会	姫沼	スノーシューを使い冬の姫沼で野鳥観察. 日本野鳥の会道北支部と共催.	学芸員, 支部員	8
2/22	ワシ・ゴマセンサス	島内一円	ワシとアザラシの個体数調査会	学芸員	9
3/29	標本講習会	博物館	標本概論と鳥類仮剥製標本講習会.	学芸員	7
未実施	探る◎小倉鯨漁場	—	小倉鯨漁場日誌を読む	志摩 進	—
未実施	利尻歴史遺産巡り	—	石碑巡り	学芸課長	—
未実施	利尻歴史講座	—	利尻島データから見る利尻島史	学芸課長	—

植木岳雪・近藤玲介：利尻島の上部中新統，鴛泊層の古地磁気層序

船木 梓・佐藤雅彦：アオイガイ（カイダコ科）の礼文島における記録

大館和広：利尻島におけるオガワコマドリの観察記録

佐藤雅彦・小林伸光・佐藤里恵・田牧和広・小杉和樹：利尻島において観察されたムクドリ科3種の記録

田牧和広：利尻島におけるミヤコドリの観察記録

村上速雄・伴野俊夫・笹森琴絵・野田和宏・吉野智生・相澤空見子・小城春雄：室蘭大黒鳥のオオセグロカモメ *Larus schistisagus* の繁殖状況
森野 浩・石井 清・佐藤雅彦・宮本誠一郎：利尻島及び礼文島の陸生ハマトビムシ（甲殻綱：端脚目）について

佐藤雅彦・丹羽真一：利尻島におけるアケボノシュスランの記録

布村 昇・石井 清・佐藤雅彦・宮本誠一郎：利尻島および礼文島の等脚目甲殻類

佐藤雅彦・村山良子・前田喜四雄・佐藤里恵・高橋 守：雄武町におけるコウモリ類の分布

佐藤雅彦・飛鳥ふみ：利尻島におけるセイヨウオオマルハナバチの記録

近藤玲介・植木岳雪：利尻島，沼浦湿原において削掘された RO-1 コアの岩相記載

大園享司・広瀬 大：利尻島においてミズナラ落葉の漂白に関わる子囊菌類

佐藤雅彦：利尻島におけるエリザハンミョウの採集記録

室 洋介・佐藤雅彦：利尻島からのシリアゲムシの初記録

西川 勝：利尻島・礼文島から得られたハサミムシの記録 附北海道産ハサミムシ関係文献目録

村山良子・前田喜四雄・佐藤雅彦：北海道枝幸町東歌登のパンケナイトンネル内でモモジロコウモリが食べ残したと思われるガ

内山真澄・西谷榮治・藤沢隆史・高島孝宗・山谷文人：宗谷管内所在の狍犬

中山知洋・村山良子・佐藤雅彦・前田喜四雄：北海道北部でのコテングコウモリ *Murina ussuriensis* の行動圏および隠れ家

平成 19 年度活動報告

<学芸員の執筆活動>

西谷学芸課長

- ・西谷榮治, 2008. 文化戊辰蝦夷地警固の会津藩士の墓から見えるもの. Ship & Ocean Newsletter, (198): 6-7.
- ・新湊小学校閉校記念誌 (新湊小学校閉校記念協賛会)

佐藤学芸係長

- ・風間健太郎・佐藤雅彦, 2008. 北海道利尻島におけるアカアシカツオドリ *Sula sula* の飛来記録. 日本鳥学会誌, 57(1):30-32.
- ・本山 功・岩井雅夫・佐藤雅彦, 2009. 利尻島の新第三系と第四系より産出した放散虫化石. 大阪化石研究会誌, 特別号, (14): 109-115.

<映像資料>

博物館オリジナルの動画資料の記録・閲覧・保管を実施。以下のコンテンツは博物館、交流促進施設などと図書室にて DVD により視聴できる。

- ・利尻島調査研究事業講座 (旧: 博物館講座) シリーズ No 6. 氷河時代の日本の気候や森林はどのようになっていたか? (利尻島調査研究事業講演会, 2008.x.3, 利尻町立博物館主催)
- ・利尻町立博物館映像記録集
リシリヒナゲシをめぐって (2008.vii.23, 環境省主催)

D. その他の活動

<学芸員の館外活動>

西谷学芸課長

- ・利尻高校総合学習講師 4/28, 5/12
- ・鬼脇中学校利尻島見学旅行 5/23
- ・国際ロータリークラブ第 2500 地区第 1 分区都市連合会講演 5/25
- ・道立礼文高等学校修学旅行講師 6/20
- ・(株)味の素社員研修講師 7/21, 7/27
- ・読売新聞東京本社「親子昆布たんけん隊@利尻・礼文」講師 8/1
- ・宗谷公立学校教頭会夏季研修講師 8/5
- ・太田市青少年交流事業「フレンドシップ 2008」

案内 8/20

- ・札幌医科大学地域医療実習講演 8/19
 - ・仙法志小学校へき地・複式教育体験実習講師 8/26
 - ・りしり発掘探検隊 9/22
 - ・いきいき学級講師 10/1
 - ・利尻町女性研修会講師 10/18
 - ・仙法志小学校総合学習
 - ・新湊小学校総合学習 2/16
 - ・ふるさとカレッジ講師 2/20
 - ・杏形小学校総合学習 3/10
- 佐藤学芸係長
- ・利尻高校郷土学習講師 5/19
 - ・香深中学校来館小講演会 5/23
 - ・教育研究会理科サークル講師 5/27, 7/22
 - ・仙法志小学校ふるさと学習 5/30, 6/27, 7/11, 7/18, 10/23, 1/23, 2/13
 - ・りしり発掘探検隊 6/7
 - ・仙法志小学校へき地・複式教育体験実習講師 8/28
 - ・札幌医科大学地域医療実習・野外観察会 8/19-20
 - ・利尻山登山利用検討会 9/9-10, 12/3, 3/17
 - ・食生活改善協議会講演 9/30
 - ・利尻小学校愛鳥活動 10/15, 11/7, 12/11

3 資料管理活動

人文史部門では、写真資料整理と台帳作成作業が行われた。

自然史部門では、385 点の資料の追加があったほか、化石凍結割れ目構造のはぎとり標本の作製などへの協力を行った。これまであまり手をつけることができなかった標本目録の整備としては、翼手目のほか、あらたに鳥獣寄生物コレクション (RTMebb) の整理と登録を実施した。

博物館出版物の電子化についても「利尻研究」6 編の PDF 化を進めた。

4. 調査研究活動

A. 利尻島調査研究事業

平成 20 年度は「溶岩流直下の種実類、葉化石による最終氷期の古植生の復元」(百原 新氏：千葉大学)が採択され、来島調査が 10/2～4 と行われた。期間中、講演会(10/3)および観察会(10/4)も実施され、昆虫化石の発見など興味深い発見も続いた。

B. 自然史系調査研究の概要(担当：佐藤雅彦)

平成 19 年度同様、博物館活動が資料・標本を中心に展開できるよう、標本収集や資料の整理・再資料化などを進めると共に、地元固有なもの、変化が激しく現状の記録が必要なものなどについての基礎的な情報収集などに関わる調査を実施した。

各分野の概要については以下のとおり。

植物：これまで利尻からは報告がなかったアケボノシュスランを記録するとともに(利尻研究, (28):29-30)、杓形地区の 2 か所のテムラスにおける植物調査を 4 月から 8 月にかけて定期的実施した。チシマザクラの開花調査では平成 19 年度に確認されたミヤマザクラの病気は確認されず、K 群落の同定を行った。リシリヒナゲシの分布実態と遺伝的多様性に関して環境省への協力を行い(8/7, 8/18)、地元で開催されたフォーラム「リシリヒナゲシをめぐって」(12/23)にパネラーとして参加した。

昆虫、その他の無脊椎動物：利尻固有種としては、*Thalassophorus spinipennis* の生態写真の撮影および島内 16 か所での棲息の確認のほか、姫沼周辺地域においてリシリウズムシ・リシリオウズムシの分布調査を実施した。平成 19 年度は平野部が対象とされた土壌動物調査については、平成 20 年度は大空沢源頭部や鴛泊および杓形の国有林内にて実施された(環北地国許第 080529007 号、環北地国許第 080611001 号ほか)。得られたサンプルは共同研究者である石井清氏(獨協医科大学)のもとで抽出およびソーティングが行われ、それぞれの専門家による同定が行われている。一部の成果は利尻研究 28 号にてすでに発表されている(利尻研究, (28): 25-

28, 31-32, 61-65)。鳥獣寄生生物については、他機関からの同定依頼のほか、当館で保管されている外部寄生虫に関するデータベース構築の準備作業などを実施し、道内産のコウモリトコジラミや国内産のトコジラミの標本などをコレクションに追加した。また「道北地域における翼手目調査」によって捕獲された雄武産チチブコウモリから採取されたツツガムシは日本産既知種とは異なり、詳細な記載が掲載された(利尻研究, (28): 33-42)。利尻島未記録種としてはエゾシリアゲ(利尻研究, (28): 59-60)やセイヨウオオマルハナバチ(利尻研究, (28): 43-44)の確認のほか、島内では記録が少ないエリザハンミョウの採集記録を年報に掲載した(利尻研究, (28): 57-58)。

鳥類：利尻島西部におけるウミネココロニーの生息個体数調査を宗谷支庁、日本野鳥の会、北大水産学部などと協力し実施した(5/23)。総個体数は約 78,000 羽と推定され、2006 年のピーク以降減少傾向となっている。利尻島未記録種としては、オガワコマドリやギンムクドリなどの観察記録を利尻研究に投稿した(利尻研究, (28): 13-14, 15-17)。平成 19 年度における傷病鳥および死体の持ち込み件数は 20 件であり、展示用剥製や仮剥製標本などになるほか、野外に放鳥できるまでの保護・飼育を実施した。

哺乳類：コウモリの移動習性調査については、利尻島および枝幸町内のトンネルにて標識の装着が行われ、少数ではあるが再捕獲や遠隔地への移動の証拠を得ることができた。「道北地域における翼手目調査」では、雄武町において初めて 3 種のコウモリを確認することができた(利尻研究, (28): 33-42)。ゴマファザラシとトドに関しては例年通り来遊個体数のカウントを行うとともに、年末トドセンサス(トドワーキンググループ主催, 12/29)および全道一斉アザラシセンサス(北の海の動物センター主催, 2/28)に協力した。

地球科学：利尻島内の雪形の季節消長の継続観察を例年通り行ったほか、道南地区の「ニワトリ」「白

い馬」の写真撮影を実施した。調査協力として、利尻山地温計回収作業（田村憲司氏・筑波大学・9/2）、降水採取作業（浅井和由氏・地球科学研究所）を実施した。

環境：登山道の崩壊や植生後退がいつ頃から起きたのかなど、利尻山の環境変化についての資料収集や聞き取り調査を実施した。成果の一部は「利

尻山登山利用検討会」などで発表された。セイヨウオオマルハナバチの探索やオオハンゴンソウ外来種駆除作業（りしり発掘探検隊（6/7）、パークボランティアの会（10/18））についても単独事業のほか、協力を行った。

C. 人文史系調査研究の概要（担当：西谷榮治）

■訂正とお詫び■

利尻研究 28 号の以下の箇所に誤りがありましたので、関係者のみなさまに深くお詫びを申し上げますとともに、ここに訂正をさせていただきます。

87p 表 1

表組みの数字が一部誤って記載されていたので、本ページの下記の表 1 を参照願います。

■お知らせ■

ともすると失われがちな地域の記録「利尻研究」は 1982 年に創刊されて以来、利尻島やその周辺地域の歴史や自然についての記録を地元に残していこうと、地元はもとより多くの来島研究者による投稿によって支えられてきた雑誌です。今号までに 273 本の幅広い分野にわたる報告が掲載され、国内外の関係機関などに毎年冊子として配布がされてきました。

しかし、近年の町財政の悪化から冊子としての配布が難しくなり、発行部数の削減と電子配布への移行を進めています。一部の方々には受領書による冊子配布のご希望にも応えかねる場合がでてくるかもしれません。気軽に手に取ってみていただける紙媒体の

冊子を多くの方々に配布できなくなることは大変心苦しいことですが、最北の島から郷土の記録を発信し続けていく決意に変わりはありませんので、みなさまのご協力とご理解を今後ともいただけますようここにお願い申し上げます。

なお、著者の方からご承諾を得た近年のバックナンバーおよび総目録については以下のサイトにて自由に閲覧や PDF ファイルのダウンロードができますので、ご活用いただければ幸いです。冊子配布から PDF ファイルによる配信へのご変更にご協力いただける方がございましたら、次ページの受領書などをご利用いただき、編集担当までどうかお知らせくださいますようお願い申し上げます。

利尻研究のページ

<http://web.mac.com/rishiri/iWeb/NHRrs/Top.html>

■利尻研究へのご投稿について■

2010 年版

- ・利尻島およびその周辺地域や離島に関する報告、当館所蔵標本を題材とした報告などを掲載しています。
- ・原稿は随時受け付け、基本的にその校了順に掲載をしていきます。予定ページ数を超過した時点で、掲載を次号へ延期させていただく場合もあります。

表 1. 平成 19 年度入館者数 (平成 21 年度訂正)

月	有料入館者					無料入館者				合計	開館日数
	個人		団体		小計	小中	一般	小計			
	小中	一般	小中	一般							
4	0	47	0	0	47	4	19	23	70	10	
5	16	470	0	34	520	34	65	99	619	31	
6	1	1,014	0	462	1,477	10	80	90	1,567	30	
7	43	1,628	0	460	2,131	51	187	238	2,369	31	
8	169	2,090	0	189	2,448	147	106	253	2,701	31	
9	15	727	0	103	845	21	85	106	951	28	
10	1	135	0	39	175	8	45	53	228	26	
11	0	17	0	0	17	13	31	44	61	26	
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1	0	0	0	0	0	0	2	2	2	1	
2	0	0	0	0	0	0	6	6	6	2	
3	0	0	0	0	0	4	7	11	11	4	
計	245	6,128	0	1,287	7,660	292	633	925	8,585	220	

- ・本誌では編集者の判断によって外部の専門家の方に査読をお願いすることもあります。できればご投稿前に適切な査読者に原稿をみていただくことをお勧めするとともに、ご相談等も受け付けたいと思います。
- ・原稿は12月末日を締切とし、年1回、年度末に発行しています。
- ・原稿には英文でタイトル、著者名、所属を必ず明記してください。
- ・ランニングタイトルを3ページ以降の奇数ページにつけておりますが、長いものはこちらで適当に短く直します。
- ・英文 abstract をできるだけつけてください。英文 summary をつけることもできますが、その場合も必ず英文 abstract をつけてください。なお短報 short communication の場合は、英文 abstract は必須ではありませんが、そのかわりに英文 Keywords を英文 abstract の次につけることはできます。
- ・掲載された第一著者の方には別刷り50部と年報をさしあげます。別刷りの追加も可能ですが、費用は著者の負担となります。
- ・カラー写真掲載ご希望の方は担当者までご相談ください。
- ・原稿はどのような形態のものでも受付けておりますが、本文などではできるかぎりテキスト形式のファイル (Macintosh 又は Windows) にして電子メール (担当佐藤まで rtm08@mac.com) にてお送り願います。
- ・テキスト形式のファイルで送っていただく場合、機種依存文字 (①, VII など) や行頭インデントや字間を揃えるための余分な空白スペースなどはなるべく使わないようにお願いいたします。
- ・図表の位置の要望がありましたら、お知らせください。
- ・1ページ内に掲載できる図の最大面積は、14.5cm × 21.0cm です。原図をページいっぱいにレイアウトしたい方は前記の数値を参考にしてレイアウトをお願いいたします。
- ・印刷までの基本的な流れは、いただいた原稿に基づいて博物館でレイアウトを作成し、著者校正をこの時点までに終了させておきます。全ての原稿のレイアウトがそろった時点で印刷会社にデータ入稿を行い、出力された印刷原稿を担当者が確認後、最終的な

印刷が実施されます。

- ・表については、特殊な表組以外はこちらでレイアウトソフト用の表組に変換してから配置しています。厳密なレイアウトを求める表の場合は、いただいた表を画像または PDF ファイルとしてレイアウトソフトに張り付けますので、どちらかお好きな方法をお申し付けください。
- ・当館の発行部数は400部 (2009年3月現在) と少ないため、複製を許可いたしません。
- ・図の入稿は近年ではほとんどが添付ファイルでいただくことが多くなってきています。精密な図の印刷が必要な場合は、できるだけ高解像度をもったオリジナルファイルをお送りください。なお、図は縮小して版下に貼り付けることとなりますが、印刷の仕上がり上 0.25mm 以下のラインは不鮮明になったり、場合によっては欠落することもあります。縮小倍率を考え、十分余裕をもったラインの太さを設定してください。また、従来通りの原図送付による入稿も受け付けますが、A4 以上の大判の原図の場合は従来通り印刷会社によってスキャンしていただくこととなりますので、事前にお尋ねいただけますようお願い申し上げます。

スタイルの統一にご協力を!

みなさまのおかげで徐々に利尻研究の報告のスタイルが統一されてきたように思い、感謝いたしております。今後ともご協力をお願いするとともに、更なるご意見などもお待ちいたしておりますので、よろしく願いいたします。

- ・句読点は「、」「。」を使います。「、」「。」は使いません。
- ・文中における引用は、「…が示されている (川端, 1995a; 葛西, 1845)」 「立花・高橋 (1999) によれば、…」 「Sasaki & Nishijima (1993) では、…」 のように記し、3名以上の文中の引用は「太田ほか (2001) は」 「Abe *et al.* (2001) では」 のようにします。
- ・文献番号は基本的につけず、著者のアルファベット順、年代順に並べます。以下の例をご参照願います。

小杉和樹, 1993. 利尻島に夏を運ぶ鳥たち. 遠藤公男編, 夏鳥たちの歌は, 今: 8-10. 三省堂.

- 東京.
- 宮本誠一郎・柚田美野里, 1997. 利尻 山の島
花の島. 北海道新聞社. 札幌. 95pp.
- 佐藤雅彦・小杉和樹, 1994. 利尻島で記録された
コテングコウモリ. 利尻研究, (13): 1-2.
- Sunose, T & M. Satô, 1994. Morphological and
ecological studies on a maine shoredolichopodid
fly, *Conchopus borealis* Takagi (Diptera,
Dolichopodidae). *Japanese Journal of Entomology*,
62: 651-660.
- Wood, D. M. & A. Borkent, 1989. Phylogeny and
classification of the Nematocera. In McAlpine, J. E. et
al. (eds.), *Manual of Nearctic Diptera*, 3: 1333-1370.
Research Branch, AgricultureCanada, Monograph
(32).